



AI×アダプティブラーニング「すらら」マナブをサポートする最先端学習システム

※ピタドリ,すららドリル,Surala Ninja!は「すらら」の姉妹商品となります。

すらら／ピタドリ／すららドリル／Surala Ninja!

教育現場におけるDXが加速し、児童生徒の「個別最適化」が求められる中、「すらら」は、小学校から高校までの国語、算数／数学、英語、理科、社会の5教科を、一人一人の理解度に合わせて進めることができるアダプティブなeラーニング教材です。私立／公立の小・中・高校、高等教育機関、学習塾をはじめ、放課後等デイサービス等においても活用が広がっています。「ピタドリ」「すららドリル」は「すらら」の姉妹サービスです。

プロが認める「基礎学力の定着力」
「すらら」を支える5大要素



サービスのベネフィット

【レクチャー機能】

- わかりやすさを徹底的に追求したスモールステップのアニメーション授業。
- インタラクティブな授業での能動学習。

【ドリル機能】

- 児童生徒の解答を判断し、自動的に最適な問題を出題。
- 解答からつまずきを診断し、つまずきに遡って復習可能。
- 英語はスピーキング機能を実装。発音の改善点を即座に把握。

【テスト機能】

- 選択した出題範囲からテストを自動作成。
- 採点は自動。診断された苦手な単元の復習カリキュラムが自動生成され、児童生徒は個別カリキュラムに沿って復習ができる。

サービスのターゲットと効果

【児童生徒】

先生がいなくても、児童生徒は自分のペースでレクチャーを視聴して理解でき、自分に合ったドリル問題を解くことができる。また、テストを受けると自分の苦手を把握し、復習できる。

【先生】

先生は、児童生徒へ説明をしたり、ドリルやテストの作問・採点の負担を減らすことができる。また、学習管理画面から児童生徒の学習ログを一元的にリアルタイムで確認をすることができ、集計の手間を減らすことができる。

- 児童生徒の90%以上がこれまでよりも授業に集中している、「わかった!」ということを経験
- 児童生徒は先生による授業やプリントによる学習時間と比べて約40%減少
- 学校の先生が1単元あたりの授業の準備の時間が約30%減少

サービスの利用事例

長野県坂城高等学校様では、より高い学習生産性と学習意欲の創出を目的に「すらら」を授業内で活用。授業中に生徒一人ひとりが自分のペースで学習に取り組んだ結果、期間中に英語では最長で15時間33分、全生徒平均で9時間10分、学習に取り組むことができた。個人間のばらつきが大きいものの、「すらら」の活用により、一つの単元を習得するのにかかる時間を短縮することもできた。数学の授業では、単元学習の前に「すらら」で自動作問、自動採点できる「小テスト」を実施し、その結果に基づいて、習熟度別のグループ分けを行った。

「小テスト」受検後は、それぞれのグループに適した課題を配信することで、難しすぎて課題に全く手がつかない生徒や、簡単すぎて手持ち無沙汰になる生徒がいなくなった。さらに、時間に余裕ができ、生徒間で学習内容について話しあう場面が授業中に見られるといった効果が表れた。教員は、生徒一人ひとりの取り組みを把握できる「リアルタイムモニター」を活用しながら、授業中の取り組み状況をチェックし、必要に応じ声をかけ、個別に指導することで、分からない所を質問できるようになった生徒や、自分で調べて学習を進めることができるようになった生徒も現れ、受け身ではなく、主体的な学習への進化が見られた。

AWS 選定のポイント

- 公立学校へのすららの導入が決まり、短期間で大規模なサーバの増設やシステムの改善が必要になり、オンプレミスサーバからAWSへシステムを移行させるにあたり、インフラの増強にかかる時間を大きく短縮することができ、技術的なサポートを受けることができる。
- オブジェクトストレージサービス「Amazon S3」(Amazon Simple Storage Service)のログ記録機能やアプリケーション監視サービス「Amazon CloudWatch」など、インフラ監視を目的としたAWSのサービスや機能を利用することで、AWSへの移行前と比べてサーバの負荷状況をより詳細に監視したり、アラートをより積極的に活用したりすることが可能となった。